一般演題 02

耳下腺癌が見落とされた顔面神経麻痺 14 症例の検討

鈴木英佑　綾仁悠介、萩森伸一、河田了

大阪府済生会中津病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【目的】顔面神経麻痺の原因となる疾患のうち耳下腺癌の頻度は高くない。そのため、耳下腺癌による顔面神経麻痺を Bell 麻痺と誤診される場合がある。耳下腺癌において、顔面神経麻痺を伴う症例と伴わない症例を比較、さらに Bell 麻痺と誤診された症例の特徴を捉えることを目的とした。

【方法】当科で初回治療を施行した耳下腺癌 209 例のうち、初診時に顔面神経麻痺を認めた症例が 42 例（20%）であり、麻痺例と非麻痺例を比較した。顔面神経麻痺を認めた 42 例のうち、耳下腺癌と診断されず、顔面神経麻痺の治療を施行された症例（pretreatment group）が 14 例、前治療なく当科初診時に耳下腺癌と診断された症例（No pretreatment group）が 28 例であり、それらを比較検討した。

【結果】顔面神経麻痺を認めた症例では、疼痛や周囲組織との癒着が有意に多く、深葉腫瘍および高悪性が多かった。また疾患特異的 5 年生存率および無病 5 年生存率はともに有意に不良であった（$p<0.01$）。Pretreatment group と No pretreatment group で比較検討したが、いずれの要因および生存率でも有意差を認めなかった。